

美濃加茂市の中期財政見通し

財政見通しの 3つのポイント！

ポイント01
人件費などを中心に
6億円の経費削減

歳入では、市税などの増収や市が所有している土地・建物などの資産を有効活用するなど、自主財源（市が自主的に収入することができお金）の拡大に努めます。

歳出では、「選択と集中」による予算の重点配分など、効果的な事業の実施とともに、行財政改革を行い、平成21年度からの5年間で、人件費などを中心に6億円の経費削減を目指します。

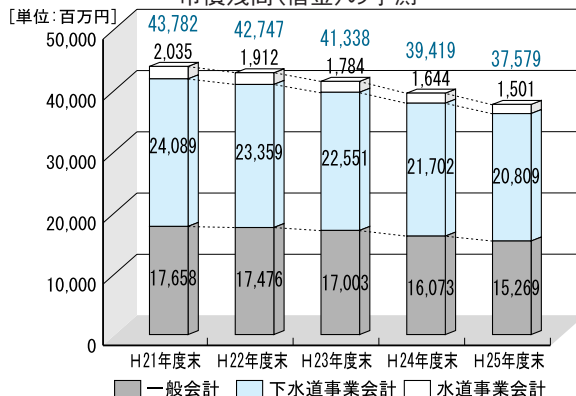
ポイント02
10年間で100億円の
借金を削減

平成21年4月現在、借金残高は、約452億円あり、この残高が増加していくと、将来の公債費の増加につながり、財政構造に余裕がなくなります。その結果、福祉や教育など皆さんに密接に関係するサービスに使えるお金が少なくなります。

そのため、当市では、経営方針として、「平成17年度から平成27

年度までの10年間で100億円の借金削減」を目標に、市民の皆さんの将来の負担を軽減します。

市債残高(借金)の予測

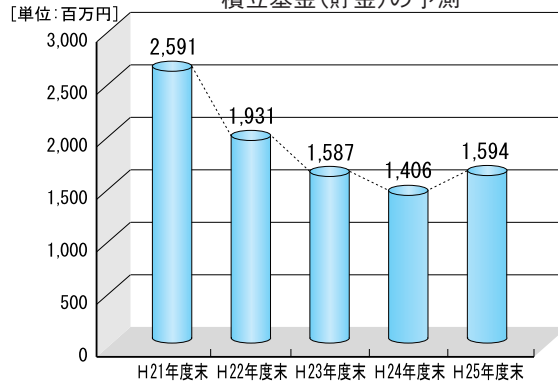


ポイント03
平成25年度以降は
貯金の積み立て

平成21年4月現在、約26億円の貯金がありますが、平成22年度から平成24年度までの3年間は、財源が不足するため、貯金を使いながら財政運営を行っていかねばなりません。

しかし、災害などの不測の事態に備えるため、できる限り貯金を減らさない財政運営を行い、黒字化が見込める平成25年度以降は、毎年一定額を積み立てます。

積立基金(貯金)の予測



健全財政を保ち続ける
まちであるために

これまで見てきたように、歳入増加が見込めない中、市として取り組まなければならない事業は増加傾向にあります。

例えば、施設などを造るときは、多くの費用が必要であり、費用の多くは、市民の皆さんの税金で賄われていますが、お金を借りて建設すると、「現役世代」だけでなく今後施設を利用する「将来世代」にも負担がかかります。

施設が古くなったら建て替えればよいという発想ではなく、施設

interview

市民総ぐるみのまちづくり

を計画的に修繕し、有効活用するなど、「将来世代」への負担を減らすような工夫が必要です。

今後、老朽化した施設の取り扱いや維持管理費をいかに軽減するかなど市民の皆さんとともに考え、「健全財政を保ち続けるまち」を目指していきます。



美濃加茂市
総合計画審議会
会長
高井 正文さん

今、自治体の財政状況は、困窮しています。そうした中、わたしたちの市は、人口増加都市・外国人集住都市・定住自立圏中心市として全国から注目されています。

『天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず』(孟子)と言われるように、人の和を大切にして、市民総ぐるみのまちづくりを進めていきたいと思います。